
バカとテストと召喚獣

らびっとそん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣

【Zコード】

Z7692Y

【作者名】

らびとそん

【あらすじ】

この物語は夏休み頃から始まります。

第一話（前書き）

あまり自信が無いのですがどうぞ見渡ださー。

第1話

期末試験も終わって、解放感が僕らを包むこの時期。7月も残すところあとわざかとなり、うるさい蝉の鳴き声や、大きな雲といった、真夏の風物詩が僕らの周りを彩っていた。

灼けるような日差しの降り注ぐ季節・・といつと日焼けが気になる女子には嫌がられるかもしれない。田焼けだけじゃない。夏という季節は、暑いし、騒がしいし、虫だつて出てくる。けど、それでも僕は、この季節が一年を通じて一番好きだ。

寒い冬を乗り越えて、たくさんの命が芽吹き出す春。

山の色彩が緑から赤へと姿を変え、訪れる寒波に対して静かに用意を初める秋。大気が澄み渡り、星の輝きがいつもより近くに感じられる冬。

他の季節にだつてそれぞれ良いところが沢山ある。

けれど、やっぱり夏というものは他の季節に比べて何か特別な気がする。

うだるような暑さも、耳をつんざく虫の自己主張も、校庭から聞こえてくる野球部の喧騒も、全てがこの特別な季節を楽しむためのスパイスだ。外に出て、この時期ならではの熱気を感じたい。賑やかな喧騒に少しだけ顔をしかめて、焦がすような日差しを全身に浴びたい。止まらない汗を拭つて、思いっきり身体を動かしたい。それが夏という季節での、日中という時間帯の、正しい楽しみ方だろう。そう。今は夏といつ心踊る特別な季節。

だから・・

明久「逃げよう雄二。この地獄から

雄二「いいこと言つじゃねえか明久。俺もこの鉄拳補習フルコースには飽き飽きしていたところだ」

だから僕らは、鉄人の補習からの脱走を決意した。雄二「だいたい、夏休みに入ったていうのに授業があるってのが間違いなんだよな。

しかもこの教室は男が殆ど。勉強どころか息をするのもキツいじゃねえか」

僕の隣の席で悪友の坂本雄一がその野性味たっぷりの顔をしかめる。明久「オマケに授業をやっているのが鉄人だもんね・・・。冬でも暑苦しいくらいなのに、この環境で鉄人のビジュアルは拷問ましては地獄に等しいよ・・・」教壇では筋骨隆々の熱血教師、鉄人こと西村先生が汗一つ見せずに補習授業を進めている。バテる様子を全く見せないのは趣味のトライアスロンで鍛え上げた体力のおかげだらうか。どう考へても人間とは思えない。

今回はここまでです。次回明久達は無事にこの地獄の補習授業から抜け出せるのか!!

第1話（後書き）

次の更新はいつになるかわからないけどがんばります。

第2話（前書き）

微妙なところから始まります。が気にしないで、」覗くだぞ。」

雄二「にしても、」この地獄の補習からどうやって逃げようか
隣で考へてゐる雄二の顔はけつこつ真剣に考へてゐる顔だこれなら
上手く逃げ出せるかも！

明久「どう？ 何か良い方法思いついた？」

雄二「ああ、今いくつか思いついたところだ」
よし！ 伊達に昔神童つて呼ばれてただけあるね

明久「で、その方法つて何？」

雄二「ああ、その方法なんだがな・・・」
どうしたんだろ？ 何か言いにくいくことでもあるのだろうか？

明久「どうしたの雄二？ 早く言つてよ」 雄二「じゃあ、言つた」

明久「もつたいたぶらないで早く、変な方法でも笑つたりしないから

雄二「実は、この方法を実行するには明久つて言つ名前のバ力を犠
牲にしないといけないんだ」

明久「へえー明久か・・・」

あれ？

明久「ちょっと待つんだ雄二」

雄二「何だバカの明久犠牲になるきになつたか？」

明久「誰がなるか！ ！ そんなこと言つなんつこつちだつて容赦なくや
つてやる」

雄二「はつ、今更何をやるきだ明久？」

明久「霧島さんに、雄二がこの前、妙に口をお姉さんをナンパし
てたことをばらしてやる！ ！」

雄二「くそつ見ていやがつたのか！ あればただ道を聞かれたから答
えてただけでナンパしていた訳じやない！ ！」

明久「そんな言い訳霧島さんに通じる訳がないじゃないか！」

雄二「てめえ、表でやがれ！ ！」

明久「上等だ！ ！」

鉄人「貴様らうるさいぞ！！」

明久「先生！雄二が僕のことをいじめます！」

雄二「お前が変なこと言い出すのが悪いんだろうが！！」

鉄人「いい加減にしろ貴様ら！！それ以上騒いだら貴様らだけ補習を追加するぞ！！」

明雄「すいませんでした！！」

鉄人「わかれればいいんだ早く座つて授業の続きを受ける

明雄「はいっ、本当にすいませんでした！！」

明久「雄二のせいだ僕まで怒られたじゃないか」

雄二「だまれ明久お前のせいだ怒られたんだ」

明久「なんだと？」

雄二「なんだまたやるきか？」

僕と雄二のにらみ合いが続く

雄二「もうやめよついつまでも争つていたら逃げ出す前に補習が終わっちゃう」

明久「そだね僕も悪かつたよ雄二」

雄二「わかれればいいんだ」

あれ？今何か僕だけが悪い感じで話を進められたような気がする
雄二「さて、今までのことは全て明久が悪いと言うことで全部水に

流そう。ありがたく思え明久」

明久「うん、君の性格が最低だと言う事を改めておもいしつたよ」

雄二「やめてくれ、そんなに誉めてもうと照れくさい」

明久「別に誉めた訳じゃない！！」

鉄人「うるさいぞ！！また吉井か、お前は宿題追加だ！！」

明久「そんなバカな」

雄二「バカはお前だぞ」

明久「だからバカはお前だぞ」

明久「そんなどうでもいいつっこみはいらないよバカー！！」

鉄人「ごじゃごじゃうるさいぞ吉井、更に宿題追加だ！！」

明久「いや～～！！！」

今回はここで終わりです。次回、明久と雄一は地獄の補習から抜け出せるのかー！ジャジャン

第2話（後書き）

次の更新もいつになるかわからないけどがんばります。

第3話（前書き）

少ないですが、「」覗ください。

やつと一時間目の補習が終わった。

明久「最悪だ、これ以上宿題を追加させられるなんて・・・」

雄二「バカだなー、静かにしてれば良かつたのに」

明久「黙れ雄二、雄二こそ人の事言えた義理じやないじやないか」

雄二「何の事だ？」

雄二「が不安そうに聞いてくる。

明久「そんなに心配しなくても大丈夫だよ」

僕が優しく言う。

明久「霧島さんにあの事を密告しただけだから」

雄二「てめえ、なんて事しやがる！？」

雄二「が本気で怒つてきた。そこまで怒ることだらうか？」

明久「落ち着きなよ、雄二」

雄二「ふざけるなー！こんな状況で落ち着いてられるかー！」

雄二「が落ち着く様子がまったく感じられない。

あつ、霧島さんが来た。

翔子「雄二」どう言うこと？」

なぜだろう、今の霧島さんはものすゞく怖い。

雄二「いや、これはだな翔子」

雄二「がいまにも泣きそうだ。

翔子「言い訳は聞きたくない」バチバチ

雄二「アバババ」

あ、雄二が連れていかれた。

雄二からのメール（たけすて）

きつと雄二は（たすけて）つて打とうとしたんだろう。

なんだか、泣けてくるなあ。

初めてじゃないだろうか、こんなにも友のことを心配したのは、明久「それにもしても、この宿題の山どうやってかたづけようか

と考えてみると、

秀吉「どうしたのじゃ、 明久」

ムツツ「元気がない」

僕の悪友の一人がやつてきた。

明久「うん、それがねかくかくしかじか（省略）つて事なんだ」

秀吉「なるほど、その宿題の山はそう言つ事じやつたのか」

ムツツ「残念」

二人が心配するように言つてきた。

秀吉「じゃあ、ワシはやることがあるからもつこくぞい、頑張るのじゃぞ明久」

秀吉が去つていく。

ムツツ「俺も、用事がある頑張れ明久」

ムツツリー二も去つていく。

あくまでも宿題を手伝う気はないみたいだ。

明久「まあ、あの一人にはあまり期待してなかつたけどね」

あの一人の事だ適当に用事があると言つて逃げたんだろう。

今日は珍しく姫路さんと南が一人とも休んでいる。一人が心配だなあ。

明久「まあ、仕方がないいつまでもくよくよしてたら駄目だ、さて次の補習どうやって抜け出そうかな？」

雄一「がいな以上僕だけで考えないといけない。少しきつつけど頑張ろう。

今回はここが終わりです。毎回同じような終わり方ですが、次もご覧ください。

明久は、補習授業から無事逃げ出すことができるのか？そして、雄一はどうなったのかジャジヤン

第3話（後書き）

次もいつ更新出来るかわかりませんがまたご覧になつてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7692y/>

バカとテストと召喚獣

2011年11月27日23時03分発行